



第25回 GMSI イブニングセミナー/第4回 実践リーダーレクチャー

工学の第3の波を期してーヘンリー・ダイヤーの日本への思いを読む

長井 寿

物質・材料研究機構
ナノ材料科学環境拠点 拠点マネージャー

日 時: 2011年5月26日(木) 16:30-18:10

会 場: 東京大学工学部 2号館 2F 221号講義室

授業科目: 工学リテラシー I (科目番号3722-129)

要旨

誰が原発事故などの問題を解決するのか?できるのか?もし、この現代社会が高度に科学・技術が発達した社会であるなら、その責任主体は科学者であり技術者であるべきだ。

だが「さらば工学部」が日本の基調であるとするれば、日本の問題の解決は他所の国からやってくる科学者や技術者にお任せする時代がくると言うとは非現実的だろうか?

実は「工学部」は日本の発明だった。今日の事態はそれが歴史的失敗だったことを意味するのかもしれない。それでは、「工学部」の設計図を描いたスコットランド人 ヘンリー・ダイヤーの思いに立ち戻り、日本の工学の「克復(=元の健康な状態を取り戻すこと)」ができるのか、できるとしたらその道筋は何かを一緒に考えてみたい。

